



Title	第2号発刊にあたって
Author(s)	片山, 剛
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニュースレター. 2007, 2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/26978
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

第2号発刊にあたって

ニュースレター第2号をお届けします。一年前の第1号に比べて、分量は二倍以上になりました。二倍になった理由は二つあります。一つは、2005年度にスタートした科研課題が二年目を迎えて、研究活動が軌道に乗って本格化してきたことです。もう一つは、研究仲間が今年度飛躍的に増加したことです。増えた研究仲間は、二種類に分かれます。

第一は、2006年12月に開催した国際ワークショップに国内外から参加していただいた先生方です。どのくらいの方々が参加してくださるか、多少不安を抱きながら、近代東アジアおよび中国歴代の土地調査事業史・土地制度史の先駆的研究者にお声をかけたところ、幸いにも多数の先生方がご快諾してくださいました。台湾の陳淑銘博士は分厚い論文を準備してくださり、コメンテータの方々は長年の蓄積にもとづく鋭利な視点から、含蓄に富むコメントを準備してくださいました。その詳細は、本誌をお読みいただきたく存じますが、ここに改めてワークショップに参加された先生方に感謝の意を表したいと存じます。2007年度も11月下旬もしくは12月初めに第二回集会を開催する予定です。

第二は、大阪大学東洋史学研究室の学生諸君です。とりわけ大学院生の諸君が、台湾や南京における資料調査・実地調査の補助、国際ワークショップの準備、また大阪における資料整理等を通じ、本人固有の研究テーマに加えて、本研究課題を第二、あるいは第三の研究テーマとして独自の視点で研究を進め、若い研究仲間として知恵とアドバイスを与えてくれました。そして本年度調査研究の「まとめ」である本誌の編集でも、原稿執筆まで買って出てくれたことは望外の喜びでした。大坪慶之・梶原真・山本一の三氏をはじめとして、鈴木宏節・岡田雅志・田村健・白玉冬（以上、大学院博士後期課程）、松本泉・中塚翔太・藤澤聖哉（以上、大学院博士前期課程）、伊藤一馬・沼田英年・松原正志（以上、学部学生）の諸氏に感謝するとともに、本人固有のテーマにおける研究の進展を祈る次第です。

台湾での調査では、国史館、中央研究院近代史研究所・同歴史語言研究所・同計算中心、国立中央図書館台湾分館の研究者・職員の方々に、南京では南京大学歴史系、中国第二歴史档案館、南京市档案館の研究者・職員の方々にお世話をなりました。復旦大学の朱海濱副教授もわざわざ南京に来訪し、援助してくださいました。また渡辺理絵博士は、台湾での資料調査に協力していただくだけでなく、ご研究の一端を本誌に投稿していただきました。ここでお名前をあげることができなかつた方々を含め、厚く御礼申し上げます。

最後に、2006年度に分担者として参加していただいた、濱島敦俊（東洋文庫）、小林茂（大阪大学）、稻田清一（甲南大学）、荒武達朗（徳島大学）、田口宏二朗（追手門学院大学）、林淑美（名古屋商科大学）の諸氏にも御礼申し上げます。

2007年3月
研究代表者 片山 剛